

中国「辺境」の地域経済と企業 (5)
～新疆維吾尔自治区天山北路～

西澤正樹

Local Economy and Enterprises in China's
Borderland (5)

～Xinjiang Uyghur Autonomous Region Tianshan North road～

Masaki Nishizawa

はしがき

第1節 烏魯木齐經濟技術開發区の企業

1. 新疆機械研究院股份有限公司 ～新疆農業開拓の基礎を支える～
2. 新疆烏蘇啤酒有限公司 ～グローバル経済下の中国ビール産業～
3. 新疆維吾尔薬業有限責任公司 ～維吾尔医薬品の最大メーカー～
4. 美克国際家具股份有限公司 ～米国向けOEM生産で急成長～

第2節 石河子經濟技術開發区の企業

1. 新疆石河子伊犁乳業有限公司 ～中国乳業トップメーカーの量産工場～
2. 新疆華興玻璃有限公司 ～新疆のガラス容器需要に応える～

第3節 博楽市、伊寧市の企業

1. 新疆博尔塔拉蒙古自治州阿拉山口欧亚大陸雪克皮業有限責任公司
～辺境の民族系皮革メーカー～
2. 伊犁百信草原蜂業有限責任公司 ～伊犁養蜂の産地化を進める～

3. 新疆伊犁旭峰天馬葯業有限公司 ～漢方葯メーカーの再生～
4. 伊犁耐菲斯沙 (Nafis) 粒画芸術服務中心 ～民族資本の創業～
5. 新疆慶華煤化有限公司 ～中央資本の大規模プロジェクト～

はしがき

ユーラシア中心部に位置する新疆維吾尔自治区は、中国の北西端に位置しモンゴル、ロシア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、アフガニスタン、パキスタン、インドに接する辺境地域だ。区域面積は約166万平方キロ（日本の約4.4倍）、北京－烏魯木齊間的高速道路距離約4,000km、航空飛行時間約4時間、2017年末人口約2,445万人、区都烏魯木齊市戸籍人口約222万人である。

新疆地域は日本では「シルクロード」「西域」として知られ、その歴史、文化に国民の幅広い層から関心が寄せられてきた。一方、中華人民共和国建国以降の新疆維吾尔自治区の地域経済・社会の動向に関する報道や調査研究報告は限られ、ともすれば古いイメージや偏った認識が持たれることが少なくない。

今後の日本、中国、内陸ユーラシアの新たな前向きな取り組みを促進するためには、そのゲートウェイともなる新疆維吾尔自治区の地域経済・社会の発展と現状を正しく理解することが重要である。

亜細亜大学と新疆財經大学は1986年に学术交流協定を締結して以来、30年以上にわたる交流を重ねている。相互に50名以上の交換留学生、客員研究員等の受入・派遣を行っている。こうした人的交流の蓄積を基礎にして、亜細亜大学アジア研究所と新疆財經大学経済学院は「新疆維吾尔自治区の地域経済・社会の発展研究」をテーマとする共同研究プロジェクトを立ち上げた。本報告は2011年8月11～23日に実施した第一次現地調査「天山北路」地域の企業経営実態について注目したものである¹⁾。

新疆維吾尔自治区内を通る古代シルクロードは天山山脈北側と南側の「天山北路」と「天山南路」そして崑崙山脈北側のオアシス都市を結ぶ「西域南

図1. 新疆维吾尔自治区の主要都市



出典) 北京 ing <http://beijinging.zening.info/index.htm>

道」の3ルートがあり、現在も自治区の主要幹線である。第一次調査ルートの「天山北路」は、甘粛省を通る河西回廊の敦煌<Dunhuang>から北上し哈密<Hami>から始まり吐魯番市<Turpan>で天山南路と分岐し烏魯木齊<Urumuchi 旧名：迪化>、石河子<Shihezi>、烏蘇<Wusu>、伊寧<Yining>を結び霍尔果斯<Khorgos>からカザフスタンのアルマトイ、キルギスのビシュケク、ウズベキスタンのサマルカンドを結んでいる。

1) 本稿は亜細亜大学アジア研究所紀要「中国「辺境」の地域経済と企業」シリーズの「中国「辺境」の地域経済と企業～内モン自治区呼倫貝爾市～」2006年、「中国「辺境」の地域経済と企業(2)～雲南省昆明市と西双版纳傣族自治州～」2008年、中国「辺境」の地域経済と企業(3)～広西壮族自治区崇左市、欽州市、防城港市、南寧市～」2010年、「中国「辺境」の地域経済と企業(4)～黒龍江省・綏芬河市、黒河市～」2011年に続く報告となる。

図2. 天山北路、天山南路、西域南道



出典) 風の旅行社 https://www.kaze-travel.co.jp/blog/silkroad_kiji076.html

第1節 烏魯木齊経済技術開発区の企業

1. 新疆機械研究院股份有限公司 ～新疆農業開拓の基礎を支える～²⁾

地方機械工業の発祥・成立・成長

新疆機械研究院股份有限公司(以下、新疆機械)は、1960年、新疆維吾爾自治区所属の研究機関「新疆機械研究所」として烏魯木齊市に設立した。2005年に「新疆機械研究院有限公司」に民営化し農業機械の開発と生産を開始し自社工場を備えた。09年に「新疆機械研究院股份有限公司」に改組した。董事長・総経理として民営化を導いたのは周衛華氏(1960年生)である。

中央の農業政策(農牧業の機械化、農牧業機械補助金)と連動し急成長し、農牧業機械の輸入代替を促進するハイテク技術企業として「創新試点企業」「火焗計画重点高新技术企業」の国家批准を得て、11年に深圳証券市場に上場を果たしている。全国農業機械メーカーの「三強」のひとつとされる。

設立当初の事業目的は、自治区内の新疆生産建設兵団による農業開拓の農

²⁾ 総経理弁公室副主任/魏万胜氏の談話

業機械化を促進することにあつた。開発・生産した農業機械は兵团農場での実績（生産性、耐久性、価格など）が全国の農業行政部門に評価され注文が集まり、生産規模を拡張してきた。全国各省が自前で自地域内の農業機械化を進めようとしている中で、新疆機械の製品が地域を越えて販売されるということは、計画経済下にあつて中央政府の「指令」があつたと考えられる。現在は前受金を受けて受注生産を行っている。

12年の売上高は約4.1億元（製品販売1,640台、約3.8億元、機械加工収入約3,200万元、技術料約13万元）、利益総額約9,000万元であつた。売上高／利益率は20%を超える高収益企業である³⁾。

「牧神」ブランドの製品シリーズ

新疆機械の製品は「農業収穫機械」「牧業収穫機械」「耕作機械」「農副産品加工機械」「林果機械」に分類され28シリーズを持つ。顧客は新疆维吾尔自治区、内蒙古自治区、寧夏回族自治区、甘肅省、山西省、河北省、東北三省にわたる。

主力製品はトウモロコシ収穫機械である。2010年には標準機1,360台（小型機械を含めると2,000台超）を受注し、売上金額は2.56億元であつた。主要顧客は黒龍江省の農業部門で約600台のトウモロコシ収穫機械を納入した。

当社の農業機械のエンジンは山東省のメーカーの製品を採用している。標準機の基本単価は30万元前後であり国内外メーカーの製品と比べ価格競争力がある。受注は好調で生産能力を超えてしまうこともある。自社内での加工生産は板金加工と組み立てである。部品コストの内製率は約20%である。江蘇省の江南機械製造有限公司製のレーザー加工機、ターレットパンチ、シャーリング、ベンディングマシンを装備している。

従業員は約500名。工場現場のワーカーの平均給与は約3,000元/月であり、沿海地域の同様の工場作業者の賃金水準と比べ労働コスト競争力を維持して

³⁾ 「新疆機械研究院股份有限公司2012年度業績速報」2013年

いる。内陸の烏魯木齊から全国への輸送コストは、例えば、黒龍江省へは大型トラックでトウモロコシ収穫機械の標準機2台を搬送する場合、約15,000元/台となる。

今後の経営展開

国内需要は旺盛なので、今後、主要な国内農業地域（黒龍江省、雲南省、広西壮族自治区、長江流域など）で、地域農業の特色に応じた農協機械生産に展開したいとしている。例えば、唐辛子収穫機械がある。当面、新疆維吾尔自治区内の需要に応えるよう開発・生産に取り組んでいる。自走式唐辛子収穫機械の販売価格は約80万元に設定しているが、中央政府の西部大開発政策において農業機械化補助金制度⁴⁾が施行されており、地方行政の農業部門のみならず、自営農家が購入し始めている。

ある農家は当社の唐辛子収穫機械を購入し、自家農場で使用するとともに地域の農場で農業機械による収穫作業請負サービスを展開することによって1シーズンで約100万元を売り上げたという事例がある。10年の実績は10台、11年には20台の受注が予定される。

また今後、国内各地の農業地域の生産品目に応じた農業機械の開発・生産に展開していく。中央政府の農業地域振興政策にも応えることになり、地域農業の機械化、省力化に貢献していく方針である。また、石河子に中央アジア諸国向けの農業機械生産工場を配置する予定である。

⁴⁾ 農業部[2013]によれば、トラクター類3,000～12万元、収穫機械類12,000～12万元など詳細な農業機械購入補助金を規定している。

写真-1 農機組立工場



写真-2 完成品ストックヤード



筆者撮影（以下同様）

2. 新疆烏蘇啤酒有限公司 ～グローバル経済下の中国ビール産業～

中国で最初にビール生産したのはロシア人といわれる。1900年に哈尔滨に「八王子啤酒廠」を設立しビール生産を始めた。1903年にはドイツ人、イギリス人の共同出資で「日尔曼啤酒公司青島股份公司」を設立し年間約100トンのビールを生産した。中国資本では1904年の「哈尔滨東北三廠啤酒廠」が嚆矢とされる。改革開放後、所得水準の上昇にともない国内需要が急拡大し、それに応じて各地方政府はビール産業に参入し80年代末には全国に800を超えるビール工場が存在した。

中国のビール生産量は1993年にドイツを抜き第二位となり、2002年にはアメリカを抜いて世界最大のビール生産国となった。06年の生産量は3,515万トン、13年には4,654万トンに達している⁵⁾。

烏魯木齊經濟技術開發区に立地する新疆烏蘇啤酒有限公司（以下、烏蘇啤酒）の前身は、1976年に設立した地方国有企業の「新疆啤酒廠」と「烏蘇啤酒廠」が民営化にともない98年に合併し「新疆烏蘇啤酒有限公司」となった。2000年に「四川啤酒」の傘下に入る。02年に中国ビール大手3社⁶⁾の1社「華

⁵⁾ 黄[2007]、高橋[2007]

⁶⁾ 2013年の中国ビール市場の中国メーカーのシェアは華潤啤酒23.5%、青島啤酒16.7%、燕京啤酒10.9%、金偉啤酒が上位を占め、日本メーカーはサントリー1.5%、アサヒ0.2

潤啤酒」が四川啤酒を買収したことから烏蘇啤酒は華潤啤酒の傘下に入る。さらに、07年にデンマークの「カールスバーグ」が華潤啤酒を通して烏蘇啤酒に資本参加し、烏蘇啤酒の57%の株式を保有している。

カールスバーグは、ベルギーのアンハイザー・ブッシュ・インベブに続き、中国西南・西部地域に積極的な投資をしており、雲南省最大のビール会社「大理啤酒（集団）有限责任公司」、西藏自治区の「拉萨啤酒廠」、甘粛省「兰州黄河企业股份有限公司」、宁夏回族自治区「宁夏啤酒廠」そして新疆维吾尔自治区の烏蘇啤酒の経営権を手に入れている。新疆维吾尔自治区のビール市場には他省のメーカーも参入しており青島ビールは約14%のシェアを獲得しており、燕京ビールは石河子に新工場を建設するなど競争は激しい。

烏蘇啤酒は、国内ビールメーカーの集団化と外資参入による資本集中のもとで烏魯木齊、烏蘇、伊寧、奇臺、庫爾勒、阿克蘇、喀什、哈密、霍尔果斯の生産工場を管轄している。これらの分工場の従業員は約3,000人、2011年の固定資産5億元、利潤2億元、納税1億元であった。新疆维吾尔自治区市場において烏蘇ビールは約85%のシェアを占める。商品は軽くドライな「烏蘇」と濃い味覚の「新疆」の2種を供給している。阿拉山口、霍尔果斯からカザフスタン、キルギスへの輸出もあるが生産量の1～5%程度に留まっている。

烏蘇啤酒烏魯木齊工場の生産と販売

烏魯木齊工場の従業員406名、08年に増産設備投資を行い瓶ビール、缶ビール、生ビール樽を年産約60万トン生産している。原料の大麦、ホップは新疆内の生産委託農家・農場と自社農場から調達している。ボトリング設備はイタリア Sympak 社製、ボトル洗浄設備は常州亞瑪頓科技開發有限公司、包装設備は青島駿克啤酒包装機械有限公司を導入している。

販売先は自治区内の卸売会社との取引が中心で各社の倉庫へ配送もしくは

％、キリン0.1%である。（データ：ユーロモニター）

先方が工場まで引き取りに来ている。ボトリングされた一部の瓶ビールは炎天下の野外に野積みしているものも見受けられた。

写真-3 ビールの瓶詰ライン



写真-4 工場から直接購入



3. 新疆維吾尔薬業有限責任公司 ～維吾尔医薬品の最大メーカー～ 7)

新疆維吾尔薬業有限責任公司（以下、新疆薬業）は、自治区所属の「新疆維吾尔薬廠」を前身とする。2001年に「武漢人福高科技産業股份有限公司」と「新疆維吾尔自治区維吾尔医医院」が共同出資し設立した自治区最大の伝統医薬品メーカーである。資本金は2,000万元（武漢人福高科技55%、維吾尔医医院45%）で烏魯木齊經濟技術開發区に約4ヘクタールの用地を確保し延べ床面積約20,000平方メートルの工場を新設した。従業員は210名、管理・事務に約20名、営業約90名、研究開発約20名、生産約80名である。

武漢人福高科技産業股份有限公司は医薬品製造、不動産開発などで年間約20億元の売り上げがある。維吾尔医医院は国家が認定している維吾尔伝統医薬品40種のうち21種類の生産販売認可を保有しており、これを出資分とした。

販売額は2006年約1,357万元、07年約2,218万元、08年3,012万元、09年5,013万元、10年約7,058万元で対前年比約40%という急成長を示しており、

7) 董事会秘書／胡蓉氏の談話

純利益約1,000万元であった。11年の販売額は1億元を目標としている。13年には薬剤処理量約2,000トン、錠剤約10億片、顆粒薬品約5,000万包、口服液約5,000万瓶などで販売額は約3億元に達した。

維吾尔医薬品の生産と販売

維吾尔医薬の思想や製法はチベット医薬や漢法医薬とは異なる。血脈や体液の流れに注目し、植物性生薬の効能を最大限に引き出そうとするものとされる。

原材料は、①当社の調達担当社員が自治区内の地方葯材市場で買い付ける、②漢方薬用の葯材を扱う卸売商から買い付ける、③中央アジア諸国から輸入する、④自社農場で栽培している。吉木薩尔（ジムサル）に約200ヘクタールの自社農場があり、和田（ホータン）、喀什（カシュ）でも農場を経営しており、100～400名の季節労働者を雇用している。

販売は担当社員が全国の病院を中心に営業している。顧客の60%以上が自治区外の病院である。カザフスタンなど中央アジア諸国に輸出したいが各国の医薬品認可が必要であり、まだ販売実績はない。新薬の開発は社内で取り組み、臨床は各病院で行っている。近年、維吾尔風伝統薬が再評価され直す傾向にあり風邪薬の売れ行きがよい。

世界の長寿地域はイタリアのサルデーニャ島、コスタリカのコニヤ半島、日本の沖縄県、ギリシャのイカリア島、パキスタンのフンザ地方などとされる。南新疆の喀什には100歳以上の住民が600名以上、和田のある村も長寿村として知られている。新疆維吾尔自治区には長寿地域があるとして、維吾尔医薬品のセールスプロモーションに活用している。

深圳証券市場への上場を申請中であり、これを契機にグローバル市場への展開を図りたいとしている。

写真-5 新疆葯業の工場棟



写真-6 維吾爾葯品サンプル



4. 美克国際家具股份有限公司 ～米国向け OEM 生産で急成長～

烏魯木齊經濟技術開發区に本社を置く「美克国際家具股份有限公司」（以下、美克家具）は、西部大開発における成功事例として新疆を訪問する政府要人が必ず訪問する象徴的な企業の一つである。

創業者の馮東明氏の両親は山西省から烏魯木齊に移住し、1960年に馮氏が生まれた。内装職人であった氏は86年に地元の仲間2名と資本金10万元を出資し家具の設計を行う「裝飾芸術研究所」を設立、家具のデザインをビジネスにしつつ地場の木材で家具製造も手掛けていた。台湾の投資家が馮氏のデザインした家具に着目して資本参加し91年に「美克国際家具私制造有限公司」となる。台湾の投資家は東莞市で米国向け家具のOEM生産を行っていたが、原材料の調達が難しくなり人件費も上昇していることから、西部内陸地域に生産工場を求めている。

米国市場へのルートを得た当社は家具の設計・製造・販売に展開し、毎年、倍々の成長を続け製造工場を拡張し95年に美克国際家具股份有限公司となる。その後、台湾投資家の出資分を買い取り2000年に上海証券市場で4,000万株を発行し資本金60億元の上場企業となった。上海株式市場への2013年度報告によれば、販売総額約26億7,516万元、利潤1億7,200万元であった。

美克グループの事業展開

13年の従業員数は約6,000名で「集成材加工」「家具製造」「家具販売」「化学工業」「不動産開発」の5つの事業に展開している。

「美克国際木業（二連浩特）有限公司」は集成材加工を行う事業所である。内蒙古自治区二連浩特市と新疆維吾尔自治区博楽市阿拉山口岸に集成材工場を配置し烏魯木斉と天津の家具組立工場に合板を供給している。

家具製造は本社の烏魯木斉工場および「美克国際家私（天津）制造有限公司」の天津工場がある。天津工場は、①海外輸出拠点 ②原材料輸入拠点 ③家具付属品の国内外調達拠点として配置したものである。

美克国際家私（天津）制造有限公司は、04年に中国の127社の家具メーカーとともに米国家具メーカー28社からアンチダンピングの提訴をうけたが、提訴中の中国メーカーのなかで最低の0.79%の追徴課税の裁決を得たことにより、米国市場向けのOEM生産環境が整った⁸⁾。

02年に家具の販売子会社を設立。米国を中心にカナダ、スウェーデン、日本等への輸出が90%を占めている。国内販売は「美克美家」ブランドにて北京、上海、天津、杭州、蘇州、寧波、大連、沈陽市、成都、重慶、武漢、圳深、広州、厦門、烏魯木斉など30数都市にフランチャイズ展開し、04年から国内販売額1位を維持している。

03年のイラク戦争時に家具輸出が激減したことから、内需向け化学工業事業に展開し輸出依存度を下げることとした。中国石油化工集団と合弁で約100億元を投資し、06年から新疆維吾尔自治区庫尔勒市で天然ガス誘導製品を生産している。また、09年から天津市にて不動産開発事業に展開し、マンション開発と併せて家具販売を促進している。

美克家具の原料調達と生産

烏魯木斉で家具製造業に展開した当初、地場で調達したポプラ（白楊）

⁸⁾ 広東家具網[2009]

を原材料としていたが輸出が拡大するにしたがって地元原木が不足し、ロシアから原木輸入を始めた。ソ連の体制崩壊後、ロシア極東地域では不足する日用物資を中国から輸入するため原木の輸出を行った。中国側はロシア側に原木買い付けの駐在員を派遣し、現金による原木調達を行い、カザフスタンを經由し新疆維吾尔自治区の阿拉山口岸を通じて輸入し、03年から阿拉山口で製材・合板工場を稼働している。

また、モンゴルを中継してロシア材を輸入するため、06年に2,600万元を投資し二連浩特に木材加工事業所を設立した⁹⁾。二連浩特事業所の原木・製材の調達先はシベリア連邦管区のトムスクである。二連浩特事業所の操業当時はロシアから原木を輸入していたが、ロシア政府は体制転換後、経済が安定していくなかで一次資源の輸出関税を高めてきた。木材に関しては、原木1立方メートル当たり輸出関税は15ユーロから50ユーロにするとされた。

そこで、06年にトムスクの製材会社に出資し原木を現金（ルーブル）で買い付け、現地で製材し半製品として輸出することにした。これにより、原木輸出の高関税を回避し原料の安定調達態勢を構築した。白樺は集成材加工、松類は製材加工し輸入している。中国独資の製材工場を所有したかったのだが、当時のロシアの投資環境は不安定であったためロシア企業への資本参加となつた。

現在の原材料調達ルートは次4系統がある。

ロシア（トムスク）－カザフスタン－中国（阿拉山口～烏魯木斉工場）

ロシア（トムスク）－モンゴル（ザミンウーデ）－中国（二連浩特～天津工場）

ニュージーランド－中国（天津工場、烏魯木斉工場）

美克家具烏魯木斉工場の従業員は約1,200名。原材料はシベリア松、白樺、ニュージーランド松などを輸入し合板、突き板¹⁰⁾に加工し、食卓をはじめ

⁹⁾ 西澤[2013]

¹⁰⁾ 「突き板」とは、木材を0.2～0.6ミリ程度に薄くスライした板。基材に接着し家具や床材などの表面化粧材として用いられる。

各種家庭用家具を組み立てている。デザインは発注先から支給される場合と試作品を提案し注文を受ける場合がある。製品は100%米国向けの量産工場である。製品はコンテナトラックで天津に輸送し輸出している。

食卓の天板の模様加工やワックス掛けは手作業で仕上げしており「ハンドメイド」の風合いを強調している。当社製品のアピールポイントである。生産現場従業員の平均賃金は約2,300元/月である。

写真-7 食卓天板の模様彫刻



写真-8 仕上げのワックス掛け



第2節 石河子経済技術開発区の企業

1. 新疆石河子伊犁乳業有限公司 ～中国乳業トップメーカーの量産工場～

新疆石河子伊犁乳業有限公司（以下、石河子伊犁乳業）は、全国に138カ所の生産工場を持つ内蒙古伊利実業集团股份有限公司（以下、伊利集団）の傘下企業のひとつである。親会社の伊利集団の2013年の売上は約76億ドルで世界の主要乳業メーカー売上規模で10位、中国の三大乳業メーカー「伊犁」「蒙牛」「光明」のなかで7年間連続売上高トップを維持している¹¹⁾。

¹¹⁾ ラボバンク（オランダ）の発表によれば、2013年の世界の主要乳業メーカーの売上ランキングは、第一位がネスレ（約283億ドル、スイス）、続いてダノン（約202億ドル、フランス）、ラクリタス（約194億ドル、フランス）で伊犁集団は10位（約76億ドル）、蒙牛集

内蒙古自治区とともに新疆维吾尔自治区には乳業メーカーは数多く、新疆维吾尔自治区では78企業が重点乳製品企業に申請し35企業が審査を通過した。石河子市では「新疆乳旺乳業有限公司」「新疆石河子花園乳業有限公司」「新疆石河子娃哈哈啟力乳業有限公司」とともに石河子伊犁乳業も重点乳製品企業に認定されている¹²⁾。

中間原材料の量産事業所

従業員約200人の石河子伊犁乳業は、伊利集団の製品シリーズ（粉ミルク、ヨーグルト、アイスクリームなど）の中間原材料となる粉末乳の量産事業所である。原材料立地・装置系工場である。現地で生産した一次産品（牛乳）を工業原料（粉末乳）に加工し、付加価値を高めて移出する「龍頭企業」の認証を得ている。一日に約200トンの原乳を加工し、年間約9,000トンの粉末乳を生産し、全量を天津の乳製品加工事業所へ移出している。天津事業所では各種乳製品に加工し国内および13カ国に輸出している。

当事業所の生産の流れは次のようである。原料の原乳は自治区内の生産建設兵団の経営する各「団場（牧場）」から、兵団所属の原乳調達会社「西部牧業」が一手に集荷し乳業メーカーに販売する。石河子伊犁乳業は西部牧業と年間契約することにより原乳の安定調達を図っている。

工場に運び込まれた原乳は衛生検査の後、冷却タンクで保管する。粉末乳加工ラインに投入する前に殺菌処理、成分分析を行い、標準成分比となるよう調整し、濃縮・粉末化加工を行う。加工ラインにはスウェーデン製、デンマーク製の設備が導入され、加工生産過程では60項目の品質検査を行っている。製品の粉末乳は20キログラムの紙袋および600キログラムのフレコンバックにパッキングしトラックおよび鉄道にて天津に出荷している。

当事業所としては、今後、羊乳、山羊乳、駱駝乳を原料とする製品も手が

団は14位（約70億ドル）、日本の明治乳業は12位（約74億ドル）、森永乳業は20位（約43億ドル）であった。

¹²⁾ 烏魯木齊在線[2011]

けたいとしているが、現状は牛乳の粉末乳量産工場の位置づけられているため、製品の多様化は本社の経営方針しだいである。

写真-9 石河子伊犁乳業ゲート



写真-10 石河子伊犁乳業



2. 新疆華興玻璃有限公司 ～新疆のガラス容器需要に応える～

新疆華興玻璃有限公司は2009年に当地に新規立地し飲料用ガラス瓶の生産を開始した。親会社は広東省のガラス瓶製造の専門メーカーで、全国に13社の子会社を持ち新疆華興玻璃はその一社である。「新疆ならび中央アジア地域最大のガラス製品企業」を謳っている。

従業員は370名。石河子市内の兵団職員とその家族である。国産の溶解炉6基を装備し8時間3交代にて24時間操業を行い、自治区内のビールメーカー、ジュースメーカー、はちみつ製造メーカーに向けたガラス瓶3種類を月産約260トン生産し、小型瓶の一部をカザフスタンに輸出している。2010年の輸出額は6～700万ドルであった。

原材料の珪砂（石英）、ソーダ灰、石灰は自治区内で調達できる。空き瓶を1トン300円で回収し再溶解してもいる。自治区内にはガラス金型を製造できないので地域外から購入している。

大規模なガラス瓶生産工場がなかった新疆維吾尔自治区で最初に立地した装置系量産工場である。ビールやジュースなど自治区内の消費拡大にともな

うガラス瓶容器需要の拡大に応じている。普通ガラス製品で規模の優位性を競争力としているので、今後、広大な区域内に分散しているガラス容器需要や、さらにカザフスタンやキルギスなど中央アジアの需要を如何に取りこんでいくかが経営課題となろう。輸送距離と需要量のせめぎ合いである。

写真-11 新疆華興玻璃有限公司



写真-12 石河子市内



固い国境線 阿拉山口口岸

阿拉山口<Alashankou>口岸は博尔塔拉蒙古自治州<Bortala Mongol>を構成する县级市博乐市<Bole>（人口約26万人）にあり、対カザフスタン貿易の主要ルートである。輸出貨物約292万トン、輸入貨物約789万トンを扱う阿拉山口口岸は陸上貨物取扱量で滿州里<Manzhouli>口岸に次ぐ中国第二位の陸上口岸である。鉄道口岸と道路口岸があり貨物の約98%が鉄道口岸を通過する。また、2004年から原油パイプライン（輸入約992万トン）が稼働しており、霍尔果<Qorghas>口岸にもカザフスタンからの天然ガスパイプライン（輸入約260万トン）が通じている。

阿拉山口口岸に向かう道路の交通量はまばらで約1時間の間ですれ違った車はトラック3台、乗用車6台であった。口岸の10数キロ手前にある人民解放軍の監視所には自動小銃を構えた一部隊が固めていた。書類、携行品、車両のチェックは厳しく、また、阿拉山口市街の入り口には監視所から連絡を

受けた公安の車が待機しており、駅前の公安署に連れていかれる。全員が公安署に登録の上、公安の職員がバスに同乗し写真撮影を規制するなど外部からの人の動きに敏感になっていた。

阿拉山口駅前や駅に隣接するホテルには旅客の人影はなく、フロント横のスペースに「カチューシャ」という名前の「辺民互市」が開かれカザフスタンから入るロシア製の雑貨、菓子、飲料が商われている。駅から約2キロメートル先の国境と「国門」への接近は許されず、建設中とされる「阿拉山口総合保税区」の現場への訪問も許可されなかった。10年の出入境旅客はわずか6万人である。旅客流動については「固い「辺境」地域」である。

対カザフスタン貿易のもう一つのルートは、伊犁哈萨克自治州<Ili Kazak>の霍城县<Huocheng>（人口約39万人）にある霍尔果斯口岸である。輸出貨物約47万トン、輸入貨物約262万トン、出入境旅客約50万人である。霍尔果口岸では「辺民互市貿易（辺境住民による小額貿易）」における3日間の自由滞在制度を施行しており、またカザフスタンとの間で「霍尔果斯特殊経済開発区」を合意し建設中である。

新疆维吾尔自治区のコンセプトは、内蒙古自治区の口岸とともにカザフスタン、モンゴル、極東ロシアの石炭、石油、鉄、非鉄金属、原木、原皮などの資源開発と輸入の窓口機能を担っている。

写真-13 阿拉山口駅



写真-14 阿拉山口駅前



1. 新疆博尔塔拉蒙古自治州阿拉山口欧亚大陸雪克皮業有限責任公司¹³⁾

～辺境の民族系皮革メーカー～

新疆博尔塔拉蒙古自治州阿拉山口欧亚大陸雪克皮業有限責任公司（以下、雪克皮業）は2002年に約50名で皮革加工業を創業したウイグル族資本の民営企業である。従業員約300名（ウイグル族95%、漢族技術者5%）を雇用している。一般ワーカーの賃金は1,500～2,000元/月で食事と宿舎を提供する。

カザフスタンとの国境の阿拉山口駅に隣接する「阿拉山口総合保税区」に工場用地約13.3ヘクタールを確保し、10年に約3,000万元を投資して約5,000平方メートルの新工場を建設、皮加工ラインを増設した。新ラインが稼働することにより、牛皮120万枚/年、羊皮200万枚/年の生産能力を備えることになった。原皮加工処理能力は新疆維吾尔自治区で最大である。さらに、羊毛加工ラインに投資し約200名を雇用する計画がある。こうした急成長にともない「國家進口牛羊皮定點加工企業<輸入牛羊皮重点加工企業>」の國家認定を得ている。

雪克皮業の10年の生産量は牛皮約65万枚、羊皮約20万枚、馬皮約4千枚で、生産額は約1億5,200万元、対前年増加額約4,200万元であった。原皮はすべて中央アジア諸国（カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、アフガニスタン）からの輸入である¹⁴⁾。当社から中央アジア各地に買い付けに行き、鉄道貨物にて輸送し阿拉山口口岸で輸入通関している。夏季の原皮輸送は迅速に輸送し加工処理しないと腐敗してしまう。そのため、鉄道口岸に隣接し大規模な加工処理能力を有する当社は、中央アジア諸国からの原皮調達についてほぼ独占状態となっている¹⁵⁾。

¹³⁾ 総経理/頭尔旦・司馬義氏の談話

¹⁴⁾ 2010年に新疆維吾尔自治区が輸入した牛皮革・馬皮革は、13,840トン、約1,800万ドルであった。（『新疆統計年鑑』2011年版）

¹⁵⁾ 伊寧にも1社、皮革加工を行う企業があるが、輸入はトラック輸送であるので原皮の大量調達には制限がある。

阿拉山口口岸で通関、検疫をした原皮はドラムで水洗いしつつ脂肪や毛根を除去し、なめし工程を経て一定の厚さに漉き、染色工程、乾燥工程に回す。一定の形状にカットした革は広東省、福建省、河北省等の皮革メーカーに販売している。

雪克皮業の事業は、少数民族地域の抱える微妙な政治的環境下にあつて、対外経済関係を深め地域経済の発展を促進したいとする中央政府の意向が反映しているように見える。

写真-15 雪克皮業の前処理工場



写真-16 染色前のなめし革



阿拉山口から伊寧市へ

阿拉山口口岸から賽里木<Sayram>湖畔を經由して伊寧市を目指す。山越えの道は高速道路が建設中である。標高2,070mの賽里木湖畔のビュースポットには一人のカザフ族の老人と一頭の馬がいた。伊犁哈萨克<ili kazak>自治州の阿勒泰<Altay>地区、塔城<Tacheng>地区、伊寧市はカザフスタンと国境を接しており、カザフ族が多く住む地域である。老人は賽里木湖を訪れる観光客を相手に乗馬姿の写真撮影ビジネスをしている。一乗馬写真3元。観光シーズンには観光バスが往来し、バスの乗客のほとんどは賽里木湖を背景にして彼の馬に乗って写真を撮るので、一日の売り上げは300～500元になるといふ。悪くないビジネスだ。

伊寧市は天山から流れ出る3本の川が合流し伊犁河となる地点に成立した街である。伊犁河は西流しカザフスタンに流れ出る。伊寧まで来て現地で聞けば、カザフスタンとの主要通関地である阿拉山口、霍尔果斯、そしてカシュガル「辺境」地域の管理・監視が厳しくなっているとのことだ。阿拉山口での動静、外国人への扱いもその影響であるという。翌日、訪問予定の霍尔果斯口岸はキャンセルとなった。

間接的な聞き取りによれば、中国側の霍尔果斯自由貿易区は建設中で、辺民互市市場で中国－カザフスタンの取引がなされている。カザフスタン人は霍尔果スで3日滞在できる査証を入手し伊寧市まで買い物に来ている。中国人がカザフスタンを訪問する場合、烏魯木齊や北京のカザフスタン領事館・大使館に査証申請しなくてはならず、その手続きは煩雑である。カザフスタン側が中国国籍人の入国を制限しているのであろう。

伊寧県政府の談話

伊寧県は伊犁河の水利に恵まれ、農業を中心とする比較的豊かな地域である。「杏の里」と呼ばれる。人口約42万人その約半数がウイグル族であり、そのほか28の少数民族が住んでいる。農地は約100万ムー（約66,687ヘクタール）、牧地は約400万ムー（266,667ヘクタール）である。杏、林檎などの果実生産が盛んで、牧業があるのでトウモロコシなどの飼料作物を作付けしている。産出する肉牛の4分の1を烏魯木齊市場に冷蔵出荷しているが、多くは地元で屠畜し枝肉を切り売りしている。収穫期が集中する果実や精肉の加工や冷凍・冷蔵流通が課題である。農畜産物の高次加工を行う企業がなく外資の投資を期待している。

地域外からの影響は二つある。第一は国家政策で取り組まれている「新農村」と「富民行動」である。伊寧県には農村振興のモデルケースを紹介する拠点がある。100年ほど前、水資源の乏しい吐魯番<Turpan>から約100家族が伊寧県の地に移住した。吐魯番于孜郷という。貧困地区の指定を受け江蘇省の「対口援助」の対象となっている。すでに1,819戸が家屋の改修費用の補

助を受けていた。

第二は新疆慶華集団の石炭液化プロジェクトである。投資計画約300億元のプロジェクトで既に約100億元が投資された。伊寧県は土地使用権を優遇価格で提供しプロジェクトの誘致を成功させた。中央企業の事業であるので県政府への直接的な税収は限られているが地域住民の雇用、企業の地元調達や従業員の地元消費などの経済波及効果に期待している。

写真-17 賽里木湖



写真-18 内陸地域への基本建設投資



2. 伊犁百信草原蜂業有限責任公司 ～伊犁養蜂の産地化を進める～

伊犁百信草原蜂業有限責任公司（以下、百信草原蜂業）のルーツは、馮鋼氏夫妻が2000年に創業した蜂蜜を生産販売する私営企業である。その後、個人株主の出資を得て資本金600万元、総資産4,000万元の企業に成長した。馮鋼氏が資本金の過半数以上を所有する筆頭株主である。06年に伊寧市国家边境経済合作区に本社、工場、販売店舗を建設し現在に至る。伊寧市はカザフスタンと接する边境地域であり、霍尔果斯口岸のカザフスタン対応地ホルゴスと通じている。

伊犁地域の養蜂業と百信草原蜂業

中国は蜂蜜および関連製品（ロイヤルゼリー、花粉、蜜蝋、プロポリス）の世界最大の生産国である。2014年の蜂蜜生産量は中国約45万トン、トルコ約9.5

万トン、アルゼンチン約8万トン、ウクライナ、ロシア、アメリカ、インドが7～8万トンと続いている。日本の蜂蜜生産量は約2,800トンで国内消費量約4.2万トンのうち約3万トンを中国から輸入している。

中国の養蜂産地は東北地方、西南地方そして新疆に分布し、蜂群数は「意蜂（約400万群）」「東方蜜蜂（約200万群）」「その他（約100万群）」の三種の蜜蜂で約700万群がある。伊犁地域では「賽里木湖周辺」「伊犁河溪谷」「昭峯広賽高原」「昭蘇夏塔」地区で約千数百戸の農家が約30万群を養蜂している。伊犁地域の養蜂環境の特徴は花の種類が豊富で植生地が集中していること、高級品の「黒蜂蜜」が採れる花が多いことである。

養蜂環境に恵まれた伊犁地域ではあるが、かつては農家がそれぞれに採取した蜂蜜を自家で瓶詰めして個々に市場で販売していた。こうした生産・加工・流通のスタイルでは品質維持や安定供給が難しく、伊犁産蜂蜜としてのブランド形成に至らないと考えた馮鋼氏は蜂蜜を「農産品」から「加工食品」にすべく自身が営んでいた養蜂業を「企業化」していく。伊犁地域の養蜂業が蜂蜜メーカーに転じた最初の事例であった。

馮鋼氏は養蜂業を企業の事業に転換していく過程で、伊犁地域の養蜂農家の組織化を進め「蜂蜜産業協会」を編成した。現在の会員数は約1,000戸に達する。百信草原蜂業が主催する協会では、会員に向けた専門家による養蜂技術の講習会、製品の展示・受注商談会の開催、高品質蜂蜜の顕彰などを行い、蜂蜜の「伊犁ブランド」の形成に努めている。大規模な養蜂に取り組もうとする農家に対して設備を無償貸与し、技術アドバイスを提供して標準以上の品質水準の蜂蜜生産を求めている。一方で会員生産者は現在、40歳代が中心だが後継者を得られない世帯が出現していることを懸念している。

集荷・加工・販売

協会の会員農家は採取した原蜜を当社に持ち込み、成分や品質によって決められた価格で販売する。買取価格は毎年の蜂蜜市況によって変動するが、最高級品の場合、30～40元/キログラム、低級品10元/キログラム、ロイヤル

ゼリーは300元/キログラム前後である。当社は会員に生産・販売に関する要望などアンケート調査で会員情報を集め、プログラミングの専門家に委託し、会員農家の「蜂蜜生産・販売管理システム」を作った。

他の仲買人との原蜜の調達競争があるが、当社の生産販売管理システムで客観的な買取価格を平等に設定していることを示すことができるため、生産者は当社の買取価格を信頼しに安定して原蜜を持ち込んでくる。成分および品質分析を済ませた原蜜は水溶融蜜にして粗濾過で夾雑物を除く。精濾過にて真空脱水し無菌タンクに保管し、商品形状に合わせて充填、包装して出荷する。

ここ数年の年間売上高は約5,000万元で安定している。売上の約半分は約2,000トン生産する一般蜂蜜、約20%がロイヤルゼリー、約30%が蜂蜜関連製品である。販売先の約80%が新疆维吾尔自治区内の販売代理店、蜂蜜専門店、販売仲介業者である。すべて国内販売で輸出はしていない。伊犁边境経済合作区が中央アジアとのビジネスを促進したいとし当社に期待し、当社も事業拡大のためカザフスタンの生産者に原蜜買付や直接投資を持ち掛けたが事業成立には至らなかった。

従業員100名の当社はこうした事業実績と地域農業振興への貢献を認められ伊犁地域の「龍頭企業」¹⁶⁾に認定された。

写真-19 百信草原蜂業



写真-20 直営販売店



3. 新疆伊犁旭峰天馬葯業有限公司 ～漢方葯メーカーの再生～

新疆伊犁旭峰天馬葯業有限公司（以下、天馬葯業）は1958年に設立した地方国有企業が発祥である。牧業地域の食肉生産から出る家畜の内臓や骨からの抽出物を葯品原料として製葯を行った。80年代に牧業からの原材料の減少にともない植物系原材料に移行したが経営は思わしくなく、国有企業改革のなかで90年に資産を売却して民営企業に転換した。

地方国有企業の資産を買い取ったのは、建設業を経営していた漢族の杭小麗女史である。

地方国有企業が持っていた11種類の漢方葯品製造認可を引き継ぐことができること、伊犁地域の良質で豊富な葯品原材料の調達ができること、原料の初期加工の技能経験のある人材を引き継ぐことができることに着目して投資した。

伊犁工業園に生産工場があったが、2010年に3,000万元を投資して現在地に工場の新設・拡大移転を行ない、施設の建設中である。2011年に新工場の試運転に漕ぎ着けた。従業員は葯品製造の専門家を中心に20数名。新工場で生産するのは、天然生葯の漢方感冒葯、産後保健葯、強壯剤など10数種類である。

工場施設・設備は、原材料を受け入れる倉庫・前処理施設、クリーンルーム環境下の浄水装置、空気清浄装置、葯剤の乾燥・粉化装置、調液・配液装置、葯品パッケージ装置などである。伝統葯品を生産していた地方国有企業の資産（葯品製造認可、原料調達ルート）を継承し最新設備を備えた近代的葯品メーカー天馬葯業が誕生した。

16) 龍頭企業とは、農家が生産する農産物の加工販売などを行い、農村経済発展のリーダー的役割を担い農村の経済発展に寄与するとして認められる企業。国家級から各省級、市级レベルで認証し、政策金融や税制上の優遇措置を受けることができる。

写真-21 天馬薬業



4. 伊犁耐菲斯沙 (Nafis) 粒画芸術服務中心 ～民族資本の創業～ ¹⁷⁾

伊犁耐菲斯沙粒画芸術服務中心 (以下、耐菲斯沙) は、2007年に創業した「砂絵」¹⁸⁾ の制作・販売を行う私営企業である。迪力木拉堤氏の妹の夫が伝統的な紋様を描く絵師であり、妹が「砂で風景画を描く」というアイデアに感応して新疆の砂を使った「現代砂絵」の制作を始めた。基本デザインは新疆の風景である。新疆に残された千仏洞の仏教壁画のデザインを取り入れた作品を創作中だ¹⁹⁾。その作品を販売する耐菲斯沙公司を迪力木拉堤氏が創業した。

創業後の2年間は作品の制作・蓄積、製品制作分業体制の構築などに投資を重ね、累積投資は80万元に達した。苦しい経営が続く中、作品を購入した人の紹介、噂で徐々に売れ行きが上向いていった。今期1～8月の販売額は約200万元である。

75名の社員が工程を分業して作品を制作する。芸術品として一品制作する

¹⁷⁾ 総経理・迪力木拉堤氏の談話

¹⁸⁾ 新疆の砂絵はウイグル族が作った新しい芸術作品である。新疆各地の様々な砂を使った絵画、彫刻、手工品がある。伝統的な砂絵はチベット仏教の制作する「曼荼羅」、インド女性が制作する「コーラム」、北米インディアンのナバホ族が制作する「イカー」があるが、それぞれ最終的には破壊される。

¹⁹⁾ 仏教壁画の構図に注目している。イスラム教の世界であるので人物像を作品にすることはない。

ものと、同じデザインを量産するものがある。量産品の一部の工程に身障者を雇用している。社員は美術学校を卒業した者と一般から募集して採用した者からなる。

原材料の砂は採取する砂漠の場所によって色が異なる。砂そのものの色を使いあるいは重ねて絵柄を表現する。この技法は当社が開発したものである。北京や烏魯木齊のホテルやレストランの高級ディスプレイとして数万元の作品が購入される。新疆内の観光地の土産物店に卸しているほかカザフスタンやドバイへ輸出もしている。

伊寧市の本店のほか烏魯木齊に2カ所、北京の新疆飯店内に販売拠点（ギャラリー）を展開している。また、吐魯番<Turpan>の「ぶどう祭り」での展示販売を予定している。将来、カザフスタン・アルマトイにギャラリーを配置したいとしている。

写真-22 創業者 迪力木拉提氏

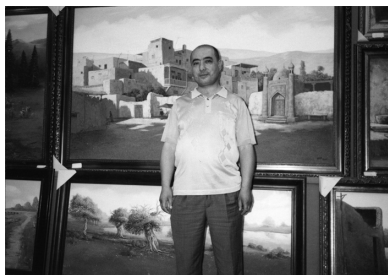


写真-23 耐菲斯沙公司の店内



5. 新疆慶華煤化有限公司 ～中央資本の大規模プロジェクト～

新疆慶華煤化有限公司（以下、新疆慶華）は、中国慶華能源集团有限公司（以下、中国慶華）の傘下企業集団の中の一つの石炭化学企業である²⁰⁾。新疆慶華

²⁰⁾ 慶華能源は傘下に内蒙古自治区慶華集団、寧夏慶華集団、青海慶華集団、新疆慶華の4つの企業集団を持つ。

の傘下には「煤化有限公司」のほか「伊犁慶華国際大酒店」「伊犁慶華能源開発」のグループ企業がある。

中国慶華の前身は現董事長の霍慶華氏が1996年に内蒙古自治区で創業した私営石炭採掘業の「百灵公司」である。霍氏は人民解放軍に所属し、その後、軍傘下の国有企業に勤務し、50歳で早期退職して石炭採掘業に参入した。国際及び国内のエネルギー資源の高騰の下で、中国政府の基本政策の西部大開発に応じるプロジェクトを次々と立ち上げ実績を重ねて、西部地域で「石炭王」と呼ばれる

2000年に内蒙古自治区の西部・阿拉善の赤字地方国有鉱山「百灵煤礦」を買収し、01年に「阿拉善慶華礦業公司」を設立。石炭、鉄鉱石の採掘を拡大した。02年に「黒鷹山鉄礦」、03年に「那林蘇海特煤礦」、青海省の「木里煤礦」、04～06年には内蒙古自治区に「格爾肯特柯克鉄礦」「阿拉善慶華循環經濟工業園」「内蒙古工業園煤化工程」、青海省に「青海省烏蘭県慶華煤化循環經濟工業園」を着工している。それぞれの鉱山、プラントが稼働する中で09年に新疆維吾爾自治区伊寧県で「新疆慶華煤化工循環經濟工業園」に着工し石炭液化プラントを建設中である。

さらに、中央政府が示した沿辺地区の開発開放、辺境都市と口岸建設を促進する政策方針に応じて、中国慶華はカザフスタンとの国境地区の霍尔果斯に「新疆慶華集團霍尔果斯国際商務中心」²¹⁾に建設プロジェクトを表明している。

ところで、2000年以降、中国の石炭需要（特に電力不足にともなう火力発電用石炭）が急増し、炭価の上昇とともに石炭生産が急増した。出炭量は2000年に13.8億トンから13年には36.8億トンに達した。36.8億トンは世界の出炭量の47.4%を占める²²⁾。「石炭大国」中国の原油生産はサウジアラビア、ロシア、

²¹⁾ 敷地面積約15ヘクタール、建築面積約55万平方メートルにビジネスホテル、会議センター、プレスセンター、コンドミニウムからなるコンプレックスを建設するもので、予定総投資額約60億元の開発プロジェクトである。

米国に次いで第4位であるが、大型の大慶や勝利油田の産油量は縮小している。タリム盆地や海洋油田の増産があるものの需要の拡大に追いつかず原油の輸入拡大が続いている。

2008年以降凍結されていた神華寧夏煤業集団の寧夏自治区東能源化工基地における「石炭間接液化」プラント建設が5年ぶりに認可された。すでに08年から内蒙古自治区オルドス市での神華集団の「石炭直接液化」プラントが稼働している。さらに、石炭をガス化しメタノールを生成しそこから合成ガソリンを製造するプラント（TMG プラント）が目ざされ、10社以上がTMG 新疆慶華建設を計画・着工している。新疆慶華が伊犁哈薩克自治州伊寧市伊寧県で建設中のTMG プラントもそのひとつである。

写真-24 新疆慶華循環經濟工業園



写真-25 建設中の石炭液化プラント



22) 中国のエネルギー需給、石炭による石油の代替に関する分析は（財）石油エネルギー技術センター[2014]「JPEC レポート2014」による。

【参考文献】

- 中国農業部 [2013] 「2013年全国通用類農業機械中央財政資金最高補填額一覧表」
- 黄 孝春 [2007] 「ビール産業の急成長・業界再編と外資の役割」（今井健一・丁可編『中国高度化の潮流－産業と企業の変革－』アジア経済研究所）
- 高橋宏幸 [2007] 「中国ビール産業の成長と産業政策」（中国現代史研究会『現代中国研究第21号』）
- 西澤正樹 [2013] 「内蒙古自治区の「辺境」二連浩特市の産業開発」（亜細亜大学アジア研究所『新段階を迎えた東アジアⅡ』アジア研究シリーズ No.80）
- （財）石油エネルギー技術センター [2014] 「規制緩和で復活する中国の石炭液化プロジェクト」『JPEC レポート』2014、第9回烏魯木齊在線[2011] 「新疆78家乳企通过“大考” 34家乳企出局」www.xj.xinhuanet.com
- 広東家具網 [2009] <http://www.driveryes.com/news/zhengce/2009-02-26/24862.html>
- 劉宇生、張濱、劉曉慶編著／山口昭、張乃恒、張淑芳訳 [2003] 『新疆概覽』文芸社（原書：新疆維吾爾自治區人民政府外事弁公室 [2001] 『新疆概覽』）